

子どもの生活環境部会のワークショップに参加して

技術支援委員会 建築環境部会 樺澤正夫

盛夏8月8日(水)、夏休みに入って静かな藤沢市立小学校の図工室を会場にして、小学校1年生から5年生までの男女70名ほどを対象にした、子どもの生活環境部会と建築環境部会によるワークショップが行われました。作業時間は午前中の2時間程度でした。

十分余裕をもって出掛けたので、集合時刻には遅れないように、隣の公園をひと回りして、さるすべりやむくげの花が奇麗に咲いているのを眺めてから会場に入りました。

ところが、既に早目に来ていた人たちで、机や椅子の配置を終え、床の養生シート敷きや机とブルーシートへの汚れ防止のための古新聞敷きまでもが済んでいました。なんて元気な会員たちでしょう。

子どもの生活環境部会・建築環境部会の計14名、男子大学生3名、そして、関プロ神奈川大会にも参加して下さった建具組合の箕島さん。

私が参加した趣旨は、教育講習委員会に所属し、建築環境部会その他にも参加していますが、土会全体の活動現場の状態を知りたいということです。土会の活動として重複は無いのか、企画や活動自体の参考になることはないか。これを見つけ出したいと思うことも目的の一つでした。

当日の当方のメンバーは、職業婦人としての建築士(主婦・母親)が大半で、子どもたちとの呼吸がぴったりという感じに受け取れました。何回かの開催経験と相まって相乗作用としての働きがその成果であったことでしょうか、大学生のお兄さんぶりとともに、素敵なハーモニーを感じました。

当日のルール・注意事項・約束事・役割分担などは、事前に打合せがなされていて双方が十分理解しあって、参加者全員がそれを守ることからスタートしています。

まず、子どもたちの来場前に、我々への岩倉リーダーからの諸注意事項の説明や運営の壺、趣旨の再確認がありました。実に緻密な計画と運営だなと感じました。

そして、先生の先導で子どもたちの入室。「おはようございます。」の元気な挨拶が次々と飛び交い、楽しい行事の始まりです。

箕島さんが搬入してくれた木片を各グループに配り、我々サイドの自己紹介をしました。

一人ずつ「よろしく願います。」と応えられて、一瞬緊張したような気分になり、しっかりやらなければとハッパを掛けられたみたいでした。

初めに、岩倉リーダーから「今日やることの説明」があり、次いで、福岡建築環境部会

長による「木についての紙芝居」がありました。子どもたちは騒いだり・いたずらも無く、時折発する福岡さんの問いかけに元気に答えたり、流暢な紙芝居の展開に目を輝かして、耳をすませて見入っていました。木に関してやってきた成果が存分に発揮されているなどという印象を受けました。

この後、養島さんの建具工としての手作り作品をいくつか見せながら、作ることの楽しさを伝えました。

そして、いよいよ子どもたちの作業の開始です。大きなサイコロ状の県産材の杉と接着剤を使って、立体パズルの制作やサイコロに色づけをした平面パズルの制作と、引き落とし材を自由に使った工作とが始まりました。

接着剤をたっぷり使い、はみ出した分をその都度濡れ雑巾で拭き取る子ども、接着剤のはみ出しが無いように要領よく適量を使う子ども。

接着剤の乾燥時間にゆとりが無く、形作ったものが崩れてしまい残念そうに手直ししている子ども。

パズルの部材ができ、全体を組み合わせることも簡単にできた子ども。部材は早く出来たのに何度も何度もいろいろの組み合わせを試しても、終わりの時刻までにできなかった子ども。

引き落とし材を使って自由な作品を作るグループでは、超高層ビル群らしきものをつくった子ども。几帳面な作業振りで箱を作ろうとしている子ども。

紙やすりを初めて使うのか、やすり掛けしたすべすべの木肌をなでて悦に入っている子ども。作業の進み具合は順調ではないが、過程の楽しみを味わっている様子であり、これももの作りのたのしさのひとつと理解しているのだと思いました。

また、一人でコツコツとやる子どももいれば、相談し合っている子どもたち。

書いても書いてもきりが無い情景が展開していました。

我々は、考えあぐねて手が止まっているような子どもにアドバイス・ヒントを与えたり、ひとりでは無理な部分に少しだけ手を貸したり、脇にいる子どもに「チョットだけ応援してあげて」と促したりしました。ルール通りに、必要以上に手を貸したり、教えたりしないようにしました。

悪ふざけや乱暴なことをする子どももいないで、所定の時間が過ぎました。

最後に、作品の持ち帰りのために、予め持参した手提げ袋に入れようとしたら、予想より作品が大きくて袋に入りやすく、悪戦苦闘の結果、部材を一部外して、家に帰ってから接着剤が固まらないうちに、完成した形に仕上げようと相談づくで袋に入れた子どももいました。

この後、事前に了解しあっていたルール通りに手際よく、ごみ・残材・養生材料などの

片付け、机・椅子などの原状復帰をして終了しました。

「最近の子どもは持久力が無い、すぐ飽きがきてしまう、直ぐ切れる」などよく聞きますが、そのような様子は微塵も無く、皆さん真剣に取り組み素晴らしい発想で、自分なりのやり方で完成に向けて一所懸命に作業し続けている姿を見て、とても心強く感じました。

この度は、「士会の中にこのような活動もあるのだ。」という実感を十分に感じ取った効用があり、「士会の活動のあり方」を考える上での示唆に富む経験をしたと思っています。

通常の活動は、大人同士で、自分(たち)の身の廻りの手の届く範囲のことだけしか取り上げずにいますが、子どもたち対象ということは、50年・100年先を見通した活動とも言えるのではないのでしょうか。また、「子どもの生活環境部会」と「建築環境部会」との協働作業としての今回のワークショップは、士会の中のコラボレーションの活性化を促すための特效薬の役割を担っているとも言えます。

そしてこれ以上の効用は、子どもたちから元気を貰え、大人の邪念を捨て素直な心持でいられる安堵感、そんなことも感じる事ができたことではないのでしょうか。

初めての経験ではありますが、得たもの感じたことを今後に活かしたいと思っています。